

地域自然情報研究会が満1歳になりました

2006年4月からGCNでは新企画として、「地域自然情報研究会」を月に1回のペースで開催しています。研究会は2007年4月でちょうど1周年を迎えたため、ここでこの1年間の報告をしたいと思います。

会員間の交流を促したり、対外的にGCNの存在をPRするためにも定期的な研究会の開催が必要じゃないかという事は、役員の間では議論されていました。そこで、2005年度の冬に、一ノ瀬と井本が中心となって、研究会を開催していくことを理事会で決定しました。なお、この研究会はGCN独自企画のものですが、造園CPDという制度の認定を受けています。造園CPD制度は、(社)日本造園学会が中心になって運営される継続教育制度で、この研究会は「講義」として申請し認定されました。

昨年度1年間で、毎月1回、合計12回の研究会を実施しました。内容は下表の通りです。この1年間に参加した延べ人数は142名で、うち会員は91名、非会員51名でした。非会員の方が全体の3分の1以上を占めるとは当初想像もしていませんでした。これは研究会で提供された話題がGCN内部だけではなく、広く一般の皆さんに興味を持って頂いた結果だと考えています。非会員として参加された方の中には、その後会員になって頂いた方も多く、GCNの仲間を増やすためにも大きな効果があったと考えています。

この研究会では参加費を低くするため、会員以外の講師も含め講演料も旅費もお支払いしませんでした。こう

いった条件であっても、研究会の趣旨に賛同して話題提供して頂ける方をお願いした次第ですが、話題提供を頂いた皆さんに改めてお礼申し上げたいと思います。

まじめな研究発表もいいのですが、この研究会の醍醐味は何と言っても二次研究会である懇親会でしょう。毎回研究会後には、演者を逃がさず、懇親会をさせて頂きました。研究会の中では聞きづらかったこと、演者も言いづらかったことがボンボン出てきて、より情報交換が促進される機会にもなりました。

研究会は2007年度も継続して、ほぼ同様の形式で続けていくことになっています。実施する曜日や時間帯は会員の皆さんの要望をお聞きして改善を試みています。昨年度は研究会をきっかけにGCNの仲間になって頂いた方も出てきた一方で、会員の参加は伸び悩んでいるように思います。より多くの会員の皆さんに参加して頂き、活発に情報交換をしていけるように、今後も開催方法を見直していかなければならないと肝に銘じています。

会員の皆さんにどしどし話題提供を頂きたいと思っています。この研究会の話題提供は学会発表でもなければ、顧客へのプレゼンでもありません。議論を活発にさせるためのきっかけですので、完成していないようなプロジェクトであっても、場合によっては他の方に相談したいようなことでも、どんどん提供して頂ければと考えています。今後も皆さんのご支援をよろしく願います。

(一ノ瀬友博)



熱の入った討議



情報交換の進む懇談会

開催日	講演者	講演タイトル
4月17日	一ノ瀬友博	淡路島における江戸時代中期から昭和時代までの樹林地の変化
5月15日	逸見一郎	流域環境ベースマップの考え方
6月12日	井本郁子	景観の変化と生物の分布
7月17日	高橋俊守	リモートセンシングを用いた流域圏ハビタットマップ作成の展望と課題
8月21日	杉村 尚	地域の自然環境情報の共有のための各種の問題点
9月18日	増澤 直	ライチョウのポテンシャルマップ
10月30日	辻村千尋	アセスメント調査における重要種選定に関する地生態学的一考察
11月27日	伊藤休一	江戸・明治期の淡路島における持続可能な土地利用とその変化
12月18日	石井 潤	淡路島の棚田のため池における水草の分布様式と規定要因
1月16日	松林健一	エコロジカルネットワークの配置を支援するデータとツール
2月13日	青島正和	鳥類生態解析技術の建設計画への適用
3月13日	楠本良延	環境要因に基づく潜在自然植生の推定と地図化

狭山丘陵は、埼玉県南西部及び東京都北西部にまたがる武蔵野台地のほぼ中央に位置し、東西約11km、南北約4kmの紡錘形に広がる独立した丘陵地です。この狭山丘陵に野山北・六道山公園、東大和公園、狭山公園、八国山公園の4つの都立公園が位置し、4公園あわせるとその面積はおよそ200haの大規模なものとなります。これらの4つの公園は平成18年からGCNもその一員である西武・狭山丘陵パートナーズが指定管理者となつて管理と運営にあたっています。東京都の公園の指定管理者の募集は、この言葉がまだあまりなじみのない2005年に本格的に始まりました。指定管理者制度は簡単にいうと、これまで地方自治体や〇〇協会というような外郭団体が管理をしていた公共施設を民間の管理にまかせ、市民サービスの向上を図るという意図のもので、地方自治法の改正（2003年）により可能になりました。都市公園のほかにも自然公園や文化施設、体育施設、福祉施設などでも制度の利用がすすめられています。



東大和公園は雑木林の公園

東京都では数十にもわたる都立公園をいくつかのグループにわけ、グループ毎に企画公募もとづいて管理者を指定しています。西武・狭山丘陵パートナーズは、はじめは西武造園・西武緑化・NPOバース、タム計画研究所という4つの法人によって立ち上げられました。しかしそのうえで、丘陵地の公園のもっとも大切な財産はそこにある自然であり、自然情報の整備が必須であるという認識から、GCNが企画立案に加わることになったという経緯があります。実際、選考過程では数多い応募企画の中で、GISによる自然情報の整備の項目は他社にない技術として評価されたということでした。

このようにして西武・狭山丘陵パートナーズの一員としてGCNが作業をはじめから1年がたちました。作業は、はじめからサプライズの連続で、「情報がない、データがない、位置があわない、精度があわない」のないないづくしのスタートでした。驚いたのは図面類はすべて紙データとして保管されており、デジタルなものは一切なかったことです。公園の境界データのデジタル化も数十枚の青焼きのスキヤンからはじまりました。もちろん空中写真もそのまものの画像、報告書はすべて紙、まずは報告書のPDF化作業からはじまり動植物の分布や植生図をスキヤンして分布図をつくっています。しかし1年がたち、なんとか野山北公園については等高線、敷地境界図、DEM、植生図、一部の希少種分布図などがそろいました。公園を巡回するレンジャーが日々集めてくる生物情報の整理の方法も決まりました。これからその情報をどんどんGISデータと



紙芝居で谷津田の歴史を語るパークレンジャー



里山民家は活動の拠点

成の紙芝居をみせてもらい、管理所副所長の折原さんに田んぼと水源を案内してもらい、尾根まであがってコウヤボウキの花を楽しみながら一日を過ごしました。地図をみるのも大事ですが、実際に歩いてみると、林や畑の状態、地形の特徴、公園を利用からの課題など様々なことが実感されます。これからのデータ作成になんらかの肥やしになればと期待しています。



カタクリは里山に春を告げる

4月1日にはカタクリの確認調査を行いました。満開のカタクリはほぼ10年前の調査資料とほぼ同じ場所に健在でした。・・・うれしいことでした。今後どのように公園の自然の活用と保全計画に成果を生かしていくか、パートナーズ、東京都、市民とともに考えていくための、わかりやすい情報、役に立つ情報の提供が大きな課題です。そのためには、これからも会員の皆様にはエクスクーショの企画、座学などに参加いただき、様々なアイデアやアドバイスをいただく機会をもうけていきたいと思っています。

このほか、野山北六道山公園と狭山公園ではパートナーズが運営する様々な活動が行われています。10月下旬、秋の田んぼの稲刈りに参加なさったGCNのSさん家族は、おとうさんは稲東づくり担当、お嬢さん2人とお母さんの3人分のイネを束ねては運び・・・すっかり家族サービスの1日だったそうです、お疲れ様でした。来年も田植えや稲刈り、収穫祭りなどたくさんの行事があります。そのほか勉強会などもありますので、ぜひパートナーズのホームページ (<http://www.sayamaparks.com/index.html>) を訪れてみてください。様々な活動が企画されています。(井本郁子)



野山北・六道山公園

編集後記

カタクリ調査に参加しましたが、木陰にひっそりと咲くカタクリの花を見て心はずむ思いがしました。GCN通信では、今後もGCNの活動や成果をできるだけ多く、皆さんに伝えていきたいと考えています。(淀川)

編集・発行

NPO法人地域自然情報ネットワーク事務局
〒162-0812 新宿区西五軒町5-14 早川ビル402
TEL/FAX 03-3260-3795
URL <http://www.boreas.dti.ne.jp/~kent/gcn/>
Mail gcn-office@geo-eco.net